

ユーロスペース「ナイト・シアター」公開第1作

BASKET CASE

切り離されたシャム双生児の復讐。
隣の席に、握りしめる手がほしい。



バスケットケース

アメリカ映画 1982年 カラー 93分

監督+脚本=フランク・ヘネンロッター

撮影=ブルース・トーベ

音楽=ガス・ルッソ

主演=ケヴィン・ヴァン・ヘンテンリック/テリー・スーザン・スミス

配給=欧日協会

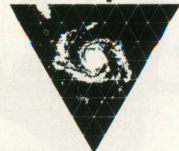
開映=月→金 21:10(終映22:45)

土・日・祭 20:00(終映21:35)

料金=当日1200円 前売1000円(当ホールのみで発売)

会場=欧日協会「ユロススペース」TEL.461-0211 渋谷駅東急プラザロ下車2分 東急観光うしろ

euro space



BASKET CASE

◎2月1日夜、ついにバスケットから顔を出す!

夜12時のベルでスクリーンに現れる映画たち——ニューヨークのミッドナイト・シアターでは、毎夜ポップコーンをかかえた若者が、反転世界のシンデレラの登場を待つ。そこでは、『ロッキー・ホラー・ショー』や『イレイザーヘッド』『ピンク・フラミンゴ』、そしてあの『フリークス』などが、ミッドナイト・ムービーと呼ばれ、熱狂的な支持を受けている。

『バスケットケース』もそうした映画の1本で、83年始めにニューヨークで公開されて以来、今なおロングランを続ける傑作。かつてロン・チャニー、ベラ・ルゴシ、団徳麿、『フリークス』の出演者たちがしめした畸型のシンボリズムを、この映画ではシャム双生児というフォルムに凝縮してみせる。これは文字通り切り離された兄弟の、父親や医者たちへの復讐譚であり、B級ホラーならではのエンターテインメントを存分に堪能させてくれる。

さらに、ここに現れる兄弟の肉体や精神の傷口は、スクリー

ンを飛び出て我々も無傷のままにはしておかない。彼らの傷口は同時に彼らの武器であり、深く広いほど、より強力さを増す。そしてその力は、ひるがえって兄弟の悲劇を増幅する。ひとりでは生きられない兄の嫉妬の牙は、弟のガール・フレンドを犯した後、弟自身にも及ぶ。惨劇が完結するラストシーンでは、落下して息絶えた二人の身体が溶け合ってみえる。今日では観客である我々もまた、自らの畸化を肯定することなしには、我々を取り巻く社会の軋轢に対抗する、いかなる武器をも持ちえないのかもしれない。この視点からフランク・ヘネンロッターもまたジョン・ウォータースやアレクサンドロ・ホドロフスキーとならぶトッド・ブラウニングの末裔と言えよう。

現代では真理は、書物や心の中などには存在しえず、よじれた肉体こそがそれを体現しうる。『バスケットケース』は我我を“五体満足”の平穏から解放し、もう一つの進化の目撃者としてのアリバイを、映画館の闇の中に提供する。

